

「かしば・見聞録」

●タウンウオッチャー発信

船木 香世子（六虫）



香芝の地名の由来につながる鹿島神社

生まれた時からここで暮らすおじいさん・おばあさん。新しい生活をスタートさせた若い夫婦。ついこのあいだ引越してきたばかりの転校生。あなたにとって、〈香芝〉は、どんな表情を持ったまちですか？

このコーナーでは、私たち「香芝遊学」タウンウオッチャーが、目・耳・鼻・口・手・足・頭を大活躍させて探したもうひとつの〈香芝〉をご紹介します。ここでご覧いただくのは、ほんのひと握り。ほんとうは、このまちに暮らす人の数だけ〈香芝〉の表情があるはずですよ。さあ、あなたの好きな〈香芝〉を発見してください。そしてあなたは、もっともっと〈香芝〉が好きになるよ！

香芝の由来

松浦 利國（狐井）

「国のはじめは大和、郡の始めは宇陀」からと言われます。いわゆる日本の地名の起源です。では、私達が棲む、香芝の名の由来とは。

昭和三年、当時の下田、二上、五位堂志都美の四村が合併して、香芝町が発足しました。その折、四村それぞれの主張が対立し、協議の拳句打聞策として、「大和(だいわ)」と「西和(せいわ)」が候補になり、一応「大和」と決まりました。ところが、町の所在を表すには不適当という声再び上がり、難産の末に「香芝」が誕生したのであります。それでは何故「かしば」と命名されたのでしょうか。遡りますと、昭和二四年四村の組合立の香芝中学校が創設されたことに起因し「香芝」に落ち着いたのですが、この香芝中学校の位置する小字名が「鹿島前」と「香ノ池尻」であった故、「カシママへ」は「カマシマ」へさらには「カマシバ」、そして「コウノシバ」「香の芝」と転訛してい

つものと聞いています。そもそもは大和下田の鹿嶋神社の由縁である、郷土の一部片岡條里制の遺ると思われる大字狐井嶺に「鹿嶋」「鹿島田」があります。隣村・磯壁の正林院源福寺の縁起によると同大字を「鹿島村」（鹿島の里）と至ったとも記されています。

何れにしても、鹿嶋神社のルーツを識ることが「香芝」の語源の由来を知ることになります。その鹿嶋神社は常陸國の鹿島神宮の御分霊を承安二（一一七二）年三月、現在の下田の社に奉祠、今日に及んでいる古社であります。

「鹿島」は『常陸風土記』に〈香島郡〉を載せ、その細註に「俗に日く、美麻貴（崇神）天皇の世に大坂山の頂きに、白細の大御服き坐して白き鉾を御杖に取り坐し、識し賜ふ命は、我が前を治め奉らば、汝が聞しめ十国は平けく、大國小国を事依さし給はんと識し賜ひき」とあります。

そして次の文に「時に八十之伴緒を追集へ此の事を挙げて訪ひ給ふ。是に大中臣神閑勝命・答へて日く。大八島は汝が知ろしめ十国と事向け賜ひし、香島國に